



第42号 (平成22年12月発行)  
東海ノア協定事務局  
(原子力機構・原子力科学研究所内)  
Telephone : 029-282-5801  
E-mail : t-noah@jaea.go.jp

東海ノア通信 第42号 をお届けします。

東海ノアでは、今年度も加盟事業所の皆様方との相互協力をもとに、積極的に協力活動を進めていきたいと考えています。東海ノア通信では、こうした日頃の協力活動をよりわかりやすく皆さまに紹介しています。

なお、東海ノア協定に基づく活動状況は、ホームページでも紹介しています。  
アドレスは、<http://tnoah.jaea.go.jp/> です。

## トピックス

### ☆活動状況

- 安全協力委員会の開催状況
- 活動推進幹事会の開催状況
- 自主保安に関する協力活動
- 安全教育に関する協力活動
- 緊急時に対応するための協力活動

### ☆加盟事業所からの事業所紹介

### ☆委員等の変更

### ☆今後の活動予定

#### 東海 NOAH :

東海村 (東海)、那珂市 (N)、大洗町 (O)、旧旭村 (A) …現銚田市、ひたちなか市 (H)

## ☆活動状況

### 安全協力委員会の開催状況

#### ○第23回安全協力委員会

開催日：平成22年10月15日（金）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

主な議題：

- (1) 第22回安全協力委員会議事録について
- (2) 平成22年度上期（4月～9月）活動状況と下期活動計画について
- (3) その他



### 活動推進幹事会の開催状況

#### ○第52回活動推進幹事会

開催日：平成22年12月17日（金）

開催場所：原子力機構 東海研究開発センター 原子力科学研究所

議題：

- (1) 第51回活動推進幹事会議事録について
- (2) 原子力事業所安全協力協定役員一覧等について
- (3) 第1回安全教育研修報告について
- (4) 第2回自主保安点検協力活動報告書について
- (5) 自衛消防隊研修会の開催について
- (6) 第2回安全教育研修計画について
- (7) 東海ノア通信第42号の発行について
- (8) その他



## 自主保安に関する協力活動

協定に加盟している事業所を対象に、核燃料物質使用施設、放射性物質取扱施設等の安全担当実務者及び防火管理の担当実務者からなる専門家を派遣し、安全管理について様々な観点から確認、意見交換を行い、安全管理の向上に役立てるための活動を行っています。

### ○平成22年度第2回自主保安点検協力活動

今年度第2回目の活動は、「住友金属鉱山株式会社エネルギー・触媒・建材事業部技術センター」を対象に11月17日に実施されました。

点検協力実施者は、東京大学大学院工学系研究科原子力専攻 工藤 久明 氏、日本原子力研究開発機構那珂核融合研究所 大貫 孝哉 氏、日本照射サービス株式会社東海センター 梅津 浩 氏の3名でした。

活動内容は、現場巡視確認及び点検シートに基づいた質疑・応答でした。

対象事業所では、試験研究等の事業活動は終了しており、政令41条非該当施設としての維持管理、水処理試験及び設備解体検討の業務を行っています。安全衛生活動としては、KY・ヒヤリハット・気付きについての安全カードを一人1日1回提出、ポイントで年1回表彰を行っています。点検協力実施者からは、安全に対する意識向上に有効であるとの意見がありました。



安全管理に関する良好事例、改善提案等について意見交換する点検協力実施者と事業所対応者



現場巡視確認のため事業所対応者から説明を受ける点検協力実施者



15種類の分別管理がされている固体廃棄物置き場

## 安全教育に関する協力活動

### ○原子力事業所安全協力協定加盟事業所の訓練見学について

原子力機構東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所では、10月29日に茨城県立消防学校との合同訓練を実施しました。これは、消防学校救助科の学生と、原子力事業者である核燃料サイクル工学研究所が合同で訓練を行うことにより、災害時の迅速な対応の体得及び消防と事業者の連携確認を目的としております。なお、この訓練は平成14年度から実施しており、今回が9回目となります。

今回は、①管理区域内火災救助訓練、②核燃料輸送事故救助訓練、この二つの訓練をそれぞれ午前と午後に行いました。

午後からの核燃料輸送事故救助訓練では、国、近隣消防本部、関係事業者等多くの方が熱心に訓練の様子を見学されました(東海ノアから3事業所5名が見学)。

今回、消防学校と合同で訓練を行ったことにより、災害時におけるより実践的な対応や消防隊との連携を体得することができ、大変有意義な訓練となりました。



### ○安全教育研修

11月9日に平成22年度第1回安全教育研修が、原子力機構原子力科学研究所敷地内にあります、原子力人材育成センターにおいて行われました。

研修では、「放射性物質のいろいろな性質」、「核燃料サイクルと臨界安全の基礎」及び「放射線防護の基礎」の講義を、そしてガンマー線及び中性子線等各種放射線の測定を体験しました。8事業所から20名の受講者があり、「事務系だが放射線関係について多く学ぶことができ、大変有意義な研修だった」などの感想を得られました。



受講の様子



実習の様子

## ○講演会等の開催について

12月2日に原子力機構東海研究開発センター原子力科学研究所において、東京大学大学院工学系研究科 機械工学専攻 特任教授 濱口哲也氏による「リスクマネジメントのための失敗学--再発防止と未然防止--」と題する講演会が開催され、聴講者は218名(うち東海ノアから4事業所14名)でした。講演会は、失敗とうまく付き合いそこから有益な知識を得る方法、同じ失敗を繰り返さない方法、未然防止の方法、失敗知識の伝達・活用方法についてという内容で、3時間が瞬く間に過ぎたという印象でした。



## ○原子力事業所安全協力協定加盟事業所の自衛消防隊研修会

茨城県立消防学校において、12月22日に13事業所29名(事業所指導員7名含む)が参加して研修会が実施されました。本研修会は、昨年引き続き本協定安全協力委員会の主催事業として実施したものです。午前中は、ひたちなか市消防本部、那珂市消防本部、大洗町消防本部、東海村消防本部及び鹿行広域事務組合消防本部の指導で「空気呼吸器等の装着訓練」、「屋内消火栓の取扱要領(ホース延長・収納等の操作)」、「消防車(化学車)からの放水・吸水訓練」の実科が行われました。参加者は、3班に分かれそれぞれを体験しました。午後からは、東海村消防本部予防課長小林義美氏による「自衛消防に関する事項(消防概論)」、大洗町消防本部火災警防課課長補佐松澤洋治氏による「火災対応の留意点(火災防御及び安全管理)」についての講義がありました。



空気呼吸器等の装着訓練



屋内消火栓の取扱要領訓練



消防車からの放水訓練

## ☆加盟事業所からの事業所紹介

### 『わが社の安全の取組みと教育』

株式会社ジェー・シー・オー 東海事業所

平成11年9月の弊社臨界事故では、周辺住民の皆様をはじめ多くの方々に、多大なご迷惑とご心配をおかけいたしました。紙面をお借りし、心からお詫び申し上げます。また、東海ノア協定加盟事業所の方々には、事故直後から多大なご支援とご協力を賜り、改めまして、深く感謝いたしますとともに、厚く御礼申し上げます。

弊社は、平成12年2月に公表しました「企業行動計画」に基づいて、「絶対安全、絶対無事故」と「基本を大切に、基本を守る」の2つを行動指針として、事故により失った信用を回復出来るよう日々努力を重ねて参ったところです。

平成15年4月には、ウラン再転換事業の再開を断念し、現在は、低レベル放射性廃棄物の適切な保管管理、施設の安全な維持管理などを行っています。

弊社の安全衛生管理については、安全管理グループが担当し、安全衛生委員会が中心的な役割を担っています。

安全衛生に係わる事項は、討議・決定され、災害発生の芽を摘むべくパトロールによる危険ポイントの発見、各規程類や作業マニュアル等のチェックを行い、安全意識の向上に努めています。各職場では、安全衛生管理者や安全衛生係員が選任されており、年間目標・月間目標の達成に向けて、推進活動を行っています。

安全教育については、全従業員を対象とした教育や放射線業務従事者を対象とした教育を、定期的に行っています。教育の内容は、臨界管理、汚染管理、被ばく管理、核物質防護、防火管理、リスクマネジメント、倫理教育などです。また、外部講師による交通安全教育も毎年行っています。これらの教育では、教育終了時に受講者の理解度を確認するためのテストを行い、その結果を次回以降の教育内容に反映させるよ

うにしています。

また、労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）を導入し、リスクの抽出・対策計画・実施・確認を行い、本質安全化を目指したリスクの削減および低減化を図っています。

最後に、現在弊社では、生産活動をしておりませんが、果たすべき役割について、安全を第一に、真摯に確実に取り組むべく、全従業員が意識の高揚を図りながら、日々の作業を行っています。今後とも、地域の皆様ならびに東海ノア協定加盟事業所の方々のご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（問合せ先）東海事業所 総務グループ  
029-287-0511

## ☆委員等の変更

原子力事業所安全協力委員会

委員（10月1日付け）

（旧）吉村忠宏（三菱マテリアル株式会社エネルギー事業センター  
那珂エネルギー開発研究所長）

（新）上田真三（三菱マテリアル株式会社エネルギー事業センター  
那珂エネルギー開発研究所長）

## ☆今後の活動予定

- ・第2回安全教育研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3月
- ・第53回活動推進幹事会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3月
- ・第24回安全協力委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3月

## 編集後記

東海ノアの活動につきましては、加盟事業所の皆様よりご理解・ご協力をいただき日頃より感謝しています。

前号で処暑について述べましたが、10月には鹿児島県奄美地方では観測史上最大となる記録的な大雨が降り、各地で道路冠水や土砂崩れなどが相次ぎ、通信や電気などのライフラインも寸断されるなどの被害が発生しました。明るい話題としては、欧州の研究チームが地球から約131億光年離れた銀河を発見したとの発表があったこと、チリ鉱山の落盤事故で地下約600mに閉じ込められていた作業員33人全員が2ヶ月後に無事救出されたこと、鈴木章氏と根岸英一氏の二人がノーベル賞化学賞（2種類の「有機化合物」をつなぎあわせて第3の有機化合物をつくる「クロスカップリング」の分野）を受賞したことなどが挙げられます。



東海ノアとしては、加盟事業所の方から気軽に声を掛けられる雰囲気作りを図っていきたく考えていますので、ご意見、ご要望等がございましたら、事務局までお寄せください。



東海ノア通信

記事の中で、「日本原子力研究開発機構」は「原子力機構」と略称で記載しています。